

表現メディアコース便り *Expression and Media Course*

表現メディアコースには、翻訳者・ジャーナリスト・CM制作・広告会社などをめざすあなたに適した講義があります。

表現メディアコースの先生を紹介します。 「比較文化論」担当の楠加重敏先生です。

楠加重敏(くすやしげとし)先生は、長年「日英文化交流史」を研究してこられました。

三十代で『ネズミはまだ生きているーチェンバレンの伝記』(雄松堂出版)、

四十代で『日本アジア協会の研究』(日本図書刊行会)、

五十代で『W.G.アストンー日本と朝鮮を結ぶ学者外交官』(雄松堂出版)を執筆。

恩師の岩生成一先生の次の言葉を大切に
して研究を続けておられます。

「大成するには根気と努力が必要である。
研究をするなら誰も手がけていないものを
やりたまえ。そしてその成果を十年たっ
たら本にしたまえ。」



楠家先生は、いつもユーモアを忘れない、とても楽しい方です。どんなときでも、まわりの人の会話が途切れるようなときは、すかさず「だじゃれ」を連発できる、稀有な才能の持ち主です。ホスピタリティあり。

楠家先生の本『W.G. アストンー日本と朝鮮を結ぶ学者外交官』(雄松堂出版)の紹介

この本は、ウィリアム・ジョージ・アストン(1841-1911)という日本研究者についての伝記です。アストンは、1864年に初めて日本の土を踏み、以後25年以上の長きにわたって外交官として日本や朝鮮半島の政治に直接携わりました。

同時に彼は日本語を熱心に学び、辞書を作り、日本研究にのめりこんでいきます。

楠家先生は「あとがき」で、「想像以上に手強く本格的な」アストンの日本研究について「しっかり研究史を勉強する決意をした」と述べておられます。『W.G.アストンー日本と朝鮮を結ぶ学者外交官』執筆は、そのスタートラインです。

ここではアストンの日本時代と朝鮮時代のことがテーマになっています。続編を楽しみに待ちたいと思います。

外国語学部応用コミュニケーション学科

第1号

2006年7月29日

9名の担当教員

JoAnn Parochetti

Peter McMillan

伊藤 壺

楠家 重敏

黒田 有子

原田 範行

長谷川 弘子

吉村 ケイ子

渡辺 光恵

*順次ご紹介します。

発行人 長谷川弘子

